

## 米姉妹都市から 義援金3万5000ドル

鳥羽市へ

鳥羽市は30日、姉妹友好都市の米国カリフォルニア州サンタバーバラ市から、東日本大震災による津波被害を

受けた市の水産業支援のため義援金3万5000ドル（約280万円）が贈られてきたと発表しました。

震災発生後、鳥羽市は、心配して問い合わせしてきたサンタバーバラ鳥羽姉妹都市交友会へ、壊滅的な打撃を被った浦村町のカキの養殖いかだの写真をメールで送った。交友会は早速、4月末に慈善立食パーティーを開催。1人50ドルの参加費で、200人以上の市民が復興を願って参加した

という。

サンタバーバラ市では鳥羽市の親善団が訪れた90年に大規模な火災が発生。一行は帽子を回して1000ドルの募金を集め、帰国してからも市民から寄せられた約232万円を贈った経緯がある。姉妹都市交友会のリンダ・マッシュューズ会長は「私たちが助けてくれたように、私たちも助けた」とメッセージを寄せている。

木田久主一市長は「水産や観光産業の復

興支援などに使いたい」と話している。

サンタバーバラ市（人口9万人）と鳥羽市は66年に姉妹都市提携を結び、夏休みに中学生が相互訪問するなど親善を深めている。11月には提携45周年を記念し、サンタバーバラ市長らを迎える予定だ。

【林一茂】